

チェルノブイリの子どもたち

チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 84 2011年3月26日発行

チェルノブイリ 25 周年救援キャンペーン

広河 隆一 チェルノブイリ・福島原発報告会 & チャリティコンサート

2011年4月23日(土) 牛込筆筈区民ホール(東京都新宿区)

このイベントの収益は、チェルノブイリ被災地の子どもたちと、東北・関東大震災の被害に遭われた方々への支援金といたします。



東京荒川少女合唱隊



クミコ(特別出演)

チェルノブイリ 25 周年救援キャンペーンに賛同します
池田香代子(ドイツ文学翻訳家) 石川逸子(詩人) 加藤登紀子(歌手)
黒部信一(小児科医師) 見城美枝子(青森大学教授・エッセイスト)
佐藤しのぶ(声楽家) 高野孟(ザ・ジャーナル主幹) 竹下景子(俳優)
広瀬隆(文筆業) 山田真(小児科医師) 吉永小百合(俳優)
(敬称略・あいうえお順)



プリビャチで2011年3月撮影

広河 隆一 チェルノブイリ写真展

(福島「原発震災」の写真も展示予定)

4/14(木)～4/26(火)

開期が延長されました
ただし4/20(水)は休館

早稲田奉仕園
スコットホール ギャラリー

東北・関東大震災の被災者のみなさまに、
心よりお見舞い申し上げます。

チェルノブイリ25周年救援イベント 2011年4月



4/23のイベントの収益は、チェルノブイリ被災地の子どもたちと、東北・関東大震災の被害に遭われた方々への支援金といたします。(東北・関東大震災の支援金は、「チェルノブイリ子ども基金あいづ」「チェルノブイリ子ども基金奥羽」を窓口として送ります。詳しくは11ページをご覧ください。)

“チェルノブイリ25周年 最新報告&チャリティコンサート”

2011年4月23日(土)14:00開演
牛込筆筒区民ホール(東京都新宿区)

〔主催〕チェルノブイリ子ども基金
連絡先：03-5228-2680

◇第1部：チェルノブイリと福島原発
広河隆一：2月に訪問したチェルノブイリの最新情報を報告します。また、震災直後に福島原発周辺取材した緊急報告も行います。

◇第2部：チャリティコンサート

ピアノ：花田美佳子

「チェルノブイリ鎮魂曲」

歌：東京荒川少年少女合唱隊

「さとうきび畑」「希望の灯」(ウクライナ民謡)ほか

歌：クミコ(特別出演)

「IINORI～祈り～」*昨年NHK紅白歌合戦に出演

“広河隆一 チェルノブイリ写真展”

4月14(木)～19日(火) 早稲田奉仕園
スコットホール ギャラリー(東京都新宿区)

1200～1900 入場無料

〔主催〕チェルノブイリ子ども基金
連絡先：03-5228-2680

各地のチェルノブイリ関連イベント

チェルノブイリ25周年救援イベントが各地で行われます。みなさまのお近くの会場にぜひ足をお運びください。

【大阪】4/2(土)14:30～「平和への種ともなればヒロシマ・ナガサキからチェルノブイリへ」(ダンスコアポシブルによるバレエ)ほか
ピッコロシアター大ホール 入場料1000円

4/7(木)～4/12(火)

「チェルノブイリの子どもの絵・写真展」大
阪市立総合生涯学習センター ギャラリーA
問合：0722-53-4644 (いのまた)

4/24(日)13:30～

「被災地ベラルーシの汚染地区から教師・大学生を迎えて交流・報告会」
毎日インテシオ 4階会議室D
*以上、大阪3カ所のイベントの主催：
チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西
問合：0797-74-6091 (たなか)

4/10(日)13:30～

「ノーモアチェルノブイリ関西のつどい」
阿倍野市民学習センター
講演：広瀬隆「日本を滅ぼす原発震災」
ギター演奏、ビデオメッセージ
主催：ノーモアチェルノブイリ関西のつどい
問合：072-843-1904 (自然環境センター)

【名古屋】4/24(日)13:30～

「チェルノブイリ25周年救援企画 in名古屋～被曝した子どもたちの願いに応えるために～」
名古屋WCA多目的ビッグスペース 参加費1000円
講演：広河隆一、神野英樹
主催：チェルノブイリ25周年救援企画 in名古屋
実行委員会 / 問合：090-4084-5468 (伊藤)

4/26(火)～5/1(日)9:30～18:00

(最終日17:00迄)

広河隆一写真展チェルノブイリ25年の軌跡
名古屋市民ギャラリー栄 第6展示室 入場無料
主催：チェルノブイリ25周年救援企画 in名古屋
実行委員会
問合：059-229-3078、090-1239-1410

“25周年救援キャンペーン”に賛同します (敬称略・あいうえお順)

池田香代子(ドイツ文学翻訳家)

石川逸子(詩人)

加藤登紀子(歌手) まだまだ大変なことは
続くと思いますが、がんばりましょう。

黒部信一(小児科医) 未だに放射能にさら
されて生きている子どもたちに希望を与え、
免疫力を高めることが私たちのできること
ではないでしょうか。希望を贈りましょう。

見城美枝子(青森大学教授・エッセイスト)
子どもたちが一人でも多く健康を取り戻して
ほしいと救援に参加してきました。これから
も一人でも多く幸せになってほしいと願って
支援を続けさせていただきます。

佐藤しのぶ(声楽家) リメンバー、人間に叡
智と愛があるかぎり、過ちは繰り返さない。
未来を担う子供達のために、平和への願いが
世界中に広がりますように。

高野孟(ザ・ジャーナル主幹) 私は忘れません。

竹下景子(俳優) 私の長男は今年満25歳。
自分の息子が健康であることを思うとチェルノ
ブイリ原発事故はとても他人事とは思えません。
すべての子どもたちの健康と平和のために、
キャンペーンの成功を祈っています。

広瀬隆(文筆業) 放射能の半減期を考
えると25年はただの区切りでしかなく、事故の被
害ははるかに先まで続くのに、みなが被害者
を忘れてゆくのは、本当におそろしいことだ
と思います。

山田真(小児科医師) チェルノブイリを風化さ
せず記憶にとどめ、私たちの原発廃絶への運
動につなげていかななくてはなりません。医療
用放射線の乱用にも歯止めを!

吉永小百合(俳優) 活動を心から応援して
おります。25周年のさまざまな取り組みのご
成功をお祈り申し上げます。みなさま頑張っ
てください。

チェルノブイリ被災地の子どもたちに 医療機器を!

チェルノブイリ25周年救援キャンペーンと
して、医療機器支援のための募金を行います。

放射線汚染地域では、未熟児や先天性の病
気をもって生まれる子どもが増えています。
海外から被災地への支援も少なくなっている
今、被災地の病院では医療機器が不足してい
ます。募金はいくらからでも受け付けていま
す。どうぞご協力をお願いいたします。

ウクライナ

ジトミル州オブルチ地区病院産科 チェルノブ



イリ事故の影響で、放射
線汚染地域のオブルチや
ナロジチ地区では未熟児
で生まれる子どもが増
えています。未熟児の
命を救う下記の医療機

器が不足しています。

[支援予定] 人工呼吸器 : 40,713 ドル

保育器 : 17,179 ドル

ベラルーシ

ゴメリ市中央小児病院 「我々の病院は、年齢

が18歳までの15,000人の患者を受け持っている。



この地区にはチェルノ
ブイリ事故による避難民
の家族が住んでいる。こ
こ数年子どもの病気は増
加している。しかし病院

には検査や治療のための医療機器が非常に不
足している」2月に広河さんが取材で訪問した
際、院長のイジャコフスキー医師(写真右)は支
援を訴えました。

[支援予定] 心電図モニター : 29,891 ドル

2010年8月 家族訪問 (その2)

報告 佐々木真理

K・ユリヤ

1993年生まれ ゴメリ市

2002年に脳腫瘍の手術。腫瘍が深い部分にあったため全摘できず、治療によって除去することになった。脳の深部の腫瘍は、ユリヤの成長に影響を及ぼしている。

現在はゴメリ市とミンスク市の病院にそれぞれ年に1回通っている。普段からよく頭痛が起きる。血圧が非常に低く、頻繁に感冒にか

かる。視力も大変悪く、心臓の問題もある。もうすぐ17歳になるが身長は143cmと低く、第二次成長がない。成長ホルモン剤は脳に残っている腫瘍を大きくしてしまう恐れがあるため、医師は今のところ服用を勧めていない。

ユリヤには2歳の弟がいる。母親は産休中。父親は以前働いていた国营企業を解雇され、しばらく収入がなかった。「2人の収入があった時はよかったけれど、自分が産休の間、夫が解雇されて次の仕事が見つかるまで大変でした。祖父母は高齢で、畑もなく、彼らからの援助はほとんどありません」

ユリヤは体に負担の大きいスポーツはできない。絵を描くこと、ビーズ細工、刺繍(目に負担が大きいため、長時間することができない)、文学作品や詩を読むことが好きで、科目では英語と化学が得意。



母親「体調のことを考えると、娘の将来の選択肢は限られると思います。入学には医師の許可がないと難しいのです。初めてミンスクの病院に行ったとき、知り合いもいなくて、母子で滞在できる特別な宿泊所に泊まりました。そこで、ゴメリに慈善団体があることを教えられました。障がい児証明をとることや、いろいろ法律的なことなど、みんなノボモワさん(ゴメリの慈善団体の代表者)に教えてもらいました。とても感謝

しています」

D・クリスチーナ

ゴメリ市 2005年生まれ。

肺と背骨の間に腫瘍が発見され、2009年12月に手術。ミンスクの小児ガンセンターで手術を受け、2ヵ月間ギプスを着けていた。半年に一度病院に検査に通っている。手術後、左側の腕が自由に動かせなくなったため、リハビリにも通っている。また、左眼球ホルネリ症候群と診断された。視力が極端に悪く、2年前から眼鏡をかけている。視力障がいの子ども用の幼稚園に通園。本人は眼鏡にコンプレックスを感じている。「メガネをとったらこんなにかわいいのに」と鏡の前で言っている。手術しても視力が回復する可能性は保障できない、と医師から言われている。最近、甲状腺炎と診断され、

薬を服用し始めた。

現在、チェルノブイリ障がい児の認定を得るための書類を準備している。認定されれば、子どもが18歳になるまで年金を受け取れる。母親（33歳、ゴメリ市生まれ）は学校の食堂で調理師の仕事をしている。仕事を休んで子どもを病院に連れて行くのが大変だという。病気休暇を使ったり無給で休みをとったりしているが、職場では休暇を取ることをよく思われていない。勤務時間が朝6時から夕方6時のため、祖母や友人が子どもを幼稚園に送り迎えしている。別居している父親からの援助は全くない。「ミンスクの小児ガンセンターに入院している子どもはほとんどゴメリの子どもなのに、ゴメリ市に専門の病院がないのはおかしいです。小児ガンセンターではあまりに多くの重症の子どもを見て、初めの1週間はショックでとても落ち込みました。クリスチーナは、「私はまだこんなに小さいのに、どうして手術をしなければいけないの？」と聞きました。絵を描いたりして説明しました。ミンスクのサナトリウムにいたとき、病気の子どもの団体があることを教えてもらいました。手術から5ヵ月後、やっとゴメリの慈善団体の会員になりました。それまで誰も何も教えてくれなくて、とても不安でした」

クリスチーナと母親の住む部屋は、台所と一部屋だけの古いアパート。家具もほとんどなく、

一目で貧しい暮らしとわかる。パホモワ「住宅局に行き、社会保障アパートを得るための手続きをください。本人に何かあったら国に返

上しなければならないけれど、本人が生存中は無料で住めるのだから」母親「仕事と子どもをいろいろな病院に連れて行くことで忙しくて、そういうことに使う時間がありません」

クリスチーナはダンスが好き。幼稚園で習ったダンスを見せてくれた。

E・ナースチャ

ゴメリ市 1995年生まれ

2010年5月に甲状腺がんの

手術を受けた。チェルノブイリ被害児認定を申請中。学校の健康診断で病気が発見された。「それまでは普通の健康な子でした。まさかこんな病気にかかるとは・・・」と母親。ナースチャは小さいころから歌やダンスが好きだった。学校の音楽・ダンス教室に所属していてコンクールにも出ている。なんにでも積極的で、ダンスや、いろいろな科目で優秀賞をもらっている。

ナースチャは、父方の祖母と母の3人で、ゴメリ市内にある、木造の古い1軒家で暮らしている。庭の畑では祖母が野菜を作っている。父親はナースチャの母が妊娠8ヵ月のころに家を出たきり行方知れずになっている。祖母はロシアのブリャンスク地方の出身。放射能汚染地区である。ナースチャが小さいころはよくそこへ行ったり、食べ物をもらったりしていた。「もし



かしたらナースチャの病気は、あそこの食べ物の放射能のせいもあるのかもしれない」母と祖母は話した。

「手術の傷跡をあまり気にしていない」とナースチャは快活に話す。母親も、娘がこんなに気をしっかりもっていることに驚いているという。パホモワは、「その傷跡は時間が経つにつれ目立たなくなる。こういう手術ができるようになったのは日本の医師のおかげだ」という話をした。

確かに、ナースチャの首の傷跡は、3カ月前の手術痕とは思えないほど、薄く細くてあまり目立たない。チェルノブイリ事故から数年後、ゴメリでは小児甲状腺ガンが多発し、初めの頃手術を受けた子どもたちの傷跡は、大きく、痛々しい跡が残るものだった。日本の菅谷医師などの援助により、今ではベラルーシの医師たちがこのような手術ができるようになっている。ゴメリの慈善団体によると、91年に350人の子どもが甲状腺がんにかかった。主に、82～84年生まれの子どもの子どもだった（事故当時の年齢は2～4歳）。その後、子どもの甲状腺ガンは徐々に減っていったが、今でもナースチャのように発症する子どもはいる。



大喜びでした。最近マリーナは音楽の試験を受けて、評価点7(良)で合格しました。今は2週間の冬休みに入っています。私はやっと仕事に就きました。給料は少ないですが、いずれ会計の専門家として働くでしょう。仕事の経験がなく、さらに障がいをもつ子どもをかかえている人間を雇い主たちは採用したくないので、仕事を見つけるのはとても大変でした。今はすべてがうまくいくこと、そして仕事の経験を積んでより給料の高い職につけることを望んでいます。そうすれば家族みんなの生活もずっと良くなるでしょう。娘は勉強が良くできます。音楽も絵もとてもがんばっていて、全国の学校の展示会に彼女の絵が飾られています。

あなたのご配慮と思いやりに心から感謝しています。

(ベラルーシ ゴメリ市)

サビーナは2回目の足の手術が終わったところです。ギプスをつけていて、痛みがあるため寝ています。足にチタン製の固定器が埋め込まれています。2カ月間、彼女は2回の重い手術を耐えぬきました。1回目は5時間、2回目は3時間かかりました。しかし問題なく終わりました。半年後にもう1度手術が予定されています。娘はがんばっていますがときどき泣いています。そのほかのことは変わりありません。娘があなたによろしくと言っています。まだペンを持つことができません。お返事をお待ちしています。

(ウクライナ スラヴチチ市)

里親のページ

日本の里親から支援を受けている家族からの手紙を紹介します。



お手紙とプレゼントをありがとうございます。子どもたちはゲームに

ЧЕРНОБЫЛЬСКИЙ ДЕТСКИЙ ФОНД ЯПОНИИ

チェルノブイリ子ども基金
〒162-0816 東京都新宿区白鷺町25メゾンD棟207
Tel./Fax. 03-5228-2680
郵便振替口座●00160-4-98316
http://www.snn.co.jp/cherno/index.html



CHERNOBYL CHILDREN'S FUND JAPAN
207 Maison de Hara, 25 Shirogane-cho, Shinjuku-ku,
Tokyo, 162-0816 JAPAN
Tel./Fax. 81-3-5228-2580
E-mail: cherno1986@tokyo.email.ne.jp

福島原発50キロ圏までの避難範囲拡大と浜岡原発の即時停止を求めます

恐れていた「原発震災」が起きました。

3月11日午後2時46分、東北地方を中心に巨大地震が発生、大津波によって多くの犠牲者を出すとともに、東京電力福島原子力発電所は制御不能の事態に陥り最悪の事態に向かって進んでいます。すでに環境には大量の放射能が放出され、周辺の人々への影響が心配されています。

政府は20キロ圏内に対して避難指示を出しました。しかし、30キロ、40キロの人の自主的避難は始まっています。特に妊産婦・子どもは率先して逃がすように政府・自治体の方をお願いします。爆発してしまったら、パニックになります。各地では避難して行く人々のために公共施設を開放し受け入れを始めています。東京も、公共施設などの受け入れをはじめました。さらに避難場所を拡大してください。

私たち「チェルノブイリ子ども基金」は、フォトジャーナリストの広河隆一がチェルノブイリ原発事故の被災地で母親たちの訴えを聞いたことにより1991年に発足し、募金活動を開始しました。20年間、さまざまな救援活動をウクライナ・ベラルーシの被害者、特に子どもたちに対して行ってきました。事故後25年が経過しようとしている今でも、事故後に生まれた子どもたちさえもが、重い病気になり、命を落としています。

「最悪の場合でも、チェルノブイリ事故ほどにはならない」との報道もあります。もちろん、私たちもチェルノブイリのような事態にならないことを強く願っています。しかし万が一の事態が起きてからでは遅いのです。日本国内のすべての原発を止めてください。特に、東海地震による「原発震災」が心配されている浜岡原発は即時停止すべきです。

原子力災害は一地域、一国の問題にとどまらない世界的かつ事実上無期限の問題であることを、チェルノブイリ事故被害者の救援を長年続けてきた私たちは強く認識しています。政府、電力会社は、すべての情報を即時公開し、国際的支援と協力を早急に要請すべきです。

初めに被害を受けるのは子どもたちです。チェルノブイリで起きたことが繰り返されてはならないのです。

2011年3月18日

チェルノブイリ子ども基金

理事長/鈴木稔 事務局長/佐々木真理

顧問/広河隆一・黒部信一 理事・監事一同

基金のホームページ(最新情報欄)には英語版、中国版を掲載しています。

黒部ドクターのお話



東電福島原発震災と健康被害

アメリカのスリーマイル島、旧ソ連のチェルノブイリ原発事故に続くのは日本の原発だろうというのが、世界の常識でしたが、やはり現実となりました。

爆発事故による放射線の直接の被曝の影響は、事故の対策にあたる人たちです。他の人はできるだけ、放射能を含んだ雨や外気にあたらないようにしましょう。特に年齢が若い人と、子どもに被害が強く出るので、子どもを持つ人は、できるだけ遠方に避難すべきです。

直接被曝したら高濃度汚染され、命に関わりません。それ以外は、モニターで外気に漏れていないと発表されていますが、データを出さないの、信頼できません。今後の風向きと雨、それに海水への汚染が問題です。低濃度でも、高齢者は影響は少なく、若いほど、子どもや胎児に影響が強く出ます（19歳以下は特に影響が大きく、50歳半ばを過ぎたら影響はほとんど考えなくてよい）。

原子力情報室（*1）の記者会見で話した医師はICRP（国際放射線防護委員会）の基準を援用していました。私が過去に小中学校のレントゲン撮影廃止運動をした時の理論的根拠は、アメリカの原子力委員会を追われたゴフマン博士の数値を使いました。もっと低い値で健康被害が生ずるということです。

その医師は「1ミリシーベルトあびると、平均してすべての細胞の核に、平均して1本の放射線の飛跡が通る。1本通るとDNAの複雑な傷を作る。傷を治す時に間違えて作るとがんの原因になる。低線量とは100～250ミリシーベルト以下を言い、急性障害は出ないが、後になってガンが出る。これを晩発障害と言う。発がんしないしきい値（限界値）は見つからない。ICRPの見解では、1万人当たりの発がんリスクは、1ミリシーベルトで一人」と発言。

低線量被曝については未知な部分であり、だから

こ子どもに対しては被曝を少しでも低く抑える必要があるのでしょうか。ヒトは体には60兆個の細胞を持ち、生殖細胞のDNAの突然変異は遺伝し、体細胞の突然変異は遺伝しない。DNAは、体細胞には60億塩基対（*2）、生殖細胞は30億対あり、細胞分裂のたびに、10億塩基対に1回くらいの間違い、つまり体細胞では6か所くらいの間違い（突然変異）が生じます。

それを修復する仕組みを人間は持っているので、症状が出ません。修復されない時にがんが発生します。自然では、60兆×6か所の間違いが生じていて、修復されています。これは健康な人の場合です。

ICRPは、1ミリシーベルトあびると、発がん率は1万人に1人と言いますが、ゴフマン博士はその37倍の数値を出しています（一生涯の数値）。ただし、心身医学から見ると、いろいろな健康障害を持った人やもって生まれたがん性格の人がなりやすいといえます。健康とはWHOの定義では、「肉体的、精神的、社会的に健全であることを言う」とされています。ですから、被曝を受けた人は、いろいろな意味で健康ではなく、発がん性が高くなります。

*1: 塩基対とはDNAの単位分子でAアデニン、Gグアニン、Tチミン、Cシトシンで水素、酸素、窒素、炭素よりなり、DNAはAとT、CとGが対になって暗号化している。

*2: 認定特定非営利活動法人 原子力資料情報室

■■福島原発について■■

●最新状況の解説を随時 Ustream でインターネット中継しています

中継：<http://www.ustream.tv/channel/cnic-news>

●CNIC公式 Twitter：@CNICJapan

黒部信一：埼玉県新座市堀之内病院 小児科医師
黒部信一のブログ <http://kurabe-shin.no-blog.jp/>

***** 募金・救援状況 *****

募金状況 2010年12月～2011年2月

	12月	1月	2月
募金件数	434件	208件	97件
救援寄付金	2,511,179	636,250	328,024
保養費	220,950	102,300	25,000
特別保養費	210,000	-	35,000
里子支援	179,980	1,373,070	526,380
25周年4月賛同金	89,000	49,000	10,000
特別保養賛同金	72,000	18,000	1,000
通信費	98,000	48,000	32,000
合計(円)	3,381,109	2,226,620	957,404

救援状況 2010年12月～2011年2月

(単位:円)

<ウクライナ>

子どもたちの生存

運営費('11.1～12月スタッフ給料、通信費、家賃) 433,900

<ベラルーシ>

希望21

年間保養費(2011年前期分) 1,868,786

クラブ活動備品 293,227

困難の中の子どもたちへ希望を

医薬品('11.1～12月分) 896,682

里子支援60人('11.1～6月分) 1,488,420

緊急支援3人 74,421

新年・クリスマス会 87,910

運営費('11.1～12月分通信費、家賃など) 348,466

<募金者の方からのお手紙>

今年もクリスマス献金を集めましたので送らせて頂きます。子どもたちが家で自分にできる仕事をしたり、自分のたくわえの中から出したり...と(略)どうぞこのお金と心を神様の御用にお使い下さい。(川和保育園)

♡ 募金団体名一覧 ♡

紙面の都合上、個人名は省略させていただいております。ご寄付をいただいたみなさまに心より感謝申し上げます。(順不同・敬称略)

【12月】トランスフェリックマネジメント／東京平和運動センター／パルク／広河隆一非核・平和写真展開催を支援する会／自治労横浜環境創造支部／広島船越教会婦人会／千葉友の会／One Voice AIZU 実行委員会／丸木美術館／大阪友の会／茅ヶ崎フォークダンスを楽しむ会／川和保育園／中振キリストの教会／松山古町教会 C.S／ヒーリング・スペース・レイ／川西友の会／広島女学院高等学校／東用堂治療院／グループ・かえる／日本キリスト教会 大阪北教会 婦人会／NCC 平和・核問題委員会／日本キリスト教会 浦和教会 日曜学校／恵泉女学園中学・高等学校／(株)医学生物学研究所／静岡 YWCA／チェルノブイリ子ども基金奥羽／実教出版放射能倶楽部

【1月】友愛富士見町保育園／千葉友の会／自治労日野市職員組合／トランスフェリックマネジメント／リサイクルグループ カリーナ／川和保育園 父母の会／チェルボナ・カリーナの会／チェルノブイリ子ども基金奥羽／チェルノブイリ子ども基金あいづ／イエスキリスト教会祈りの家

【2月】東京一般労働組合東京音楽大学分会／三重・チェルノブイリ被曝児童救援募金／千葉友の会／日本基督教団 代々木上原教会／TMヨオガ楽園／(株)スカーレット／TEAM ICBM ドージョーチャクリキ／TRIGGER 実行委員会

<2011年版チェルノブイリ救援カレンダー>

収益(募金額)1,782,331円 (3月1日現在)多くのみなさまからのご協力、お礼申し上げます。

<東北・関東大震災 被災者への支援について>

震災で被害を受けたみなさまを支援するため救援金を募ります。子ども基金の支部「子ども基金 あいづ」「子ども基金 奥羽」を通じて募金を送る予定です。両団体は、今回の震災で直接被害を受けませんでしたが、大きな被害を受けた福島県、岩手県に所在しています。今までに、救援コンサートを開いたり、チェルノブイリの被害者を招待したり、また、里親としてチェルノブイリの子どもたちの支援を行って来たりしています。震災直後から、それぞれのネットワークを通じて被災者への支援活動を行っています。募金は「東北関東大震災」と明記の上、下記口座にお振り込みください。両団体を通じて募金を送る予定です。

チェルノブイリ子ども基金 郵便振替 00160-4-98316

◇野菜や牛乳から放射能が検出されるなど原発震災の被害が広がっています。

できるだけ新しい情報をブログ「神楽坂事務局だより」にアップの予定です。

事務局から

ボランティア募集

4/14～4/19、4/21～4/26「チェルノブイリ写真展」(東京・早稲田奉仕園)の受付当番、搬入・搬出のボランティアを募集しています。

事務局では、毎月第1・3土曜日の午後1時半～5時半、ボランティアの方に事務作業などを手伝っていただいています。

ニュース発送作業(年4回:3・6・9・12月)

次回 6/18(土)午後1時～4時ごろまで 東京ボランティア市民活動センター(飯田橋駅ビル セントラルプラザ10階) 少しの時間でも歓迎です。

ボランティア参加希望の方は、日程が変更になる場合もありますので前日までにご連絡ください。

【問い】平日午前10時～午後5時半 留守の場合は伝言をお願いします。T&F 03-5228-2680

「基金ニュース」について

募金をくださった方には、その使われ方の報告としてニュースレターをお送りしています。また、ニュース購読費(2,000円/年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。

書籍のご案内「紛争、貧困、環境破壊をなくすために世界の子どもたちが語る 20のヒント」ピースポート[編](合同出版)1400円

第3章 自然環境と子どもたち「ベラルーシ コウノトリよはげなけ! -チェルノブイリの子どもたち-」を、子ども基金スタッフが執筆しています。書店でも購入できますが、只今事務局にも在庫があります。事務局にご注文いただくと、書籍代の一部が募金となります。(送料別途)

<2月に行われたイベント>

2/12(土)東京ボランティア市民活動センター主催の「ふれあい満点市場」に子ども基金が出演。ポストカードや民芸品を販売しました。

2/13(日)第15回小田原市地球市民フェスタに「子ども基金・江の浦支部」が参加。子どもたちの絵画展や広河隆一カレンダー展が行われました。子ども基金からもボランティアが参加しました。

2/20(日)25周年イベント・ゲストの「荒川少年少女合唱隊」の子どもたちに、チェルノブイリの勉強会



を開きました。子ども基金スタッフが映像を見せながら話をしました。

2/27(日)「TRIGGER Presents Smile for チェルノブイリ by K-1」格闘技イベントでチェルノブイリ・チャリティが行われました。会場ではチャリティオークションも行われ、子ども基金に寄付をいただきました。子ども基金スタッフがリング上でチェルノブイリ報告を行いました。

いつもあたたかいご支援をありがとうございます。振込用紙・領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願いです。

すべての方に振込用紙を同封しております

事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で、受領確認の連絡をご希望の方には、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収書がご入り用の際はお申し出ください。

ご不明な点がございましたら問い合わせください。

今号のニュース発行は、予定より1週間遅れました。また予定していた誌面を一部変更しました。

子ども基金が支援をしているベラルーシとウクライナの団体・個人から、日本の震災について、心配・お見舞い・励ましのメールがたくさん届いています。「私たちにできることがあれば言ってください!」など心のこもった言葉がそえられていました。

発行人 チェルノブイリ子ども基金 鈴村 稔 発行日 2011年3月26日(年4回発行)

〒162-0816 東京都新宿区白銀町25メゾンド原207号室 Tel/Fax 03-5228-2680

郵便振替口座 「チェルノブイリ子ども基金」 00160-4-98316

ウェブサイト = <http://www.smn.co.jp/cherno/index.html> e-mail: cherno1986@tokyo.email.ne.jp

事務局ブログ 神楽坂事務局だより <http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/>

当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。

現地メディアによるチェルノブイリ関連ニュース、翻訳の上、随時ブログ・HPで更新中